

東京都知的財産総合センター 成果事例のご紹介

PCT出願を機に、実験小動物用 吸入麻酔装置を海外展開

株式会社 スカイネット

平成6年創業。小企業ではあるが、技術には定評がある。製品としては、新生児無呼吸モニター、人工呼吸ガス（麻酔時に使用）の圧力モニター、医療機器の保守管理電子システムなどがある。

代表取締役：井上 政昭
所在地：東京都文京区湯島
2-16-9 ちどりビル302
業 種：医療機器製造販売
資 本 金：4,600万円

医薬や治療方法の研究開発には、マウスのような実験動物が欠かせない。それらの動物の犠牲の上に人間は高度な医療の恩恵を受けていると言える。動物実験をスムーズに行うには麻酔状態にすることになる。しかし、マウスのような小動物は、呼吸が激しく(120回/分)、呼吸量も極小で、麻酔ガスのコントロールを非常に精緻に行う必要がある。供給ガスが多ければ動物は死ぬ。又、麻酔が浅いと覚醒し、暴れ出すことも多い。スカイネットは東京都中小企業振興公社の「ものづくり新集積形成事業」の助成を受け、このように課題の多い小動物用麻酔装置の開発に成功した。

性能的には期待通りの装置が完成し、18年5月に日本特許出願を行い、その秋に東京都知的財産総合センターの外国特許出願費用助成に応募した。しかしその審査に見事に落選した。その日本特許出願は、対外発表の前に出願しなければならないため、弁理士も起用せずに行った急ぎの出願であった。その内容が技術の本質を的確に捉えたものではなく、使用する補助器具についての特許請求の範囲が多かったため、助成金の審査では有効な権利化は期待できないとの判断であった。

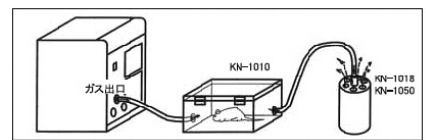
そこで、公社の知的財産総合センターアドバイザーが支援することになった。その支援は、①いくつかある関連出願相互の関係の確認、②精緻な先行特許調査の実行（関連出願を利用しての特許庁の先行技術調査も活用）、③装置の技術的特徴と新規特許出願のポイントの明確化と特許請求の範囲の骨子づくり、④代理人となる

弁理士の選択、⑤弁理士を交えての新規出願の構想についてのディスカッションなどであった。技術内容ではなく、当初の出願内容が問題だと考えたのだ。その結果、18年5月の日本特許出願の優先権を活用して、19年4月にPCT特許出願に結実させた。この出願に基づき再度外国特許出願費用助成に応募し、130万円余の助成を受けられることになった。またPCTの国際調査報告では、出願の特徴を認める判断がなされ、特許権利化が予測される状況である。

企業の声

製品は順調に販売されているが、海外ではコストダウンが課題であり、その改良を進めている。知的財産総合センターの支援により、良い内容に直してPCT出願することができ感謝しています。

担当:知的財産アドバイザー 児玉 志郎



知財のよろず相談を専門家集団（相談員・弁理士・弁護士）がサポート！

東京都知的財産総合センターでは、中小企業の皆さまの知的財産に関するご相談を承っております

【無料・予約制】TEL 03-3832-3656 [公社トップページ](#) →メニュー一覧 [知的財産](#)